

挑戦する組織の一員として

大阪ガス株式会社

ガス製造発電エンジニアリング事業部

杉木 勝哉

私は2016年3月に大阪大学工学研究科電気電子情報工学専攻を修了し、2016年4月から現在の大阪ガス株式会社で働き始めました。私が電子情報工学を志望した理由は、小さいころから鉄道が好きで、大学ではその仕組みについて学びたいと思ったためでした。

学部時代の私はサークルやアルバイトに熱中したり、さらには大学生が参加するインターンを運営しているNPO法人に所属するなど、大学を志望した当初の理由からはかけ離れた環境で活動をしていましたが、学部4年生の研究室配属をきっかけに学部の勉強に集中し、学部4年生から修士課程にかけた3年間はDC-DCコンバータなどの電力変換回路における電磁ノイズに関する研究を行っておりました。

今の会社を志望した理由は、挑戦する組織で常に挑戦する環境で働きたいと思ったためです。その理由として、学部時代に所属していたNPO法人における経験の影響が大きかったと感じています。私が学部時代に所属していたNPO法人とは、若者と政治をつなぐことを理念に掲げ、春休みや夏休みの期間を利用して大学生が参加する政治家インターンを運営する団体でした。私も知人の紹介で学部2年生の夏にそのインターンに参加したのですが、インターン活動を進めていく中で、私を受け入れて下さった議員の方の目指す街づくりの姿やその実現のために日々地道な活動する姿に非常に共感し、当時サークルとアルバイトに明け暮れていた私は「今の生活を続けるだけでは面白くない」、「何か新しいことに挑戦したい」と感じ、このNPO法人に所属することを決めました。NPO法人における活動内容は、インターンの参加者を募集するための広報活動やインターンを受け入れて下さる議員の方への営業活動など多義にわたっていました。団体所属当時の一日の流れについて振り返ってみると、早朝から学校で参加者を募集するためのチラシ配りを行い、授業の始まる前に告知活動を行い、昼休みには説明会を開き、大学の授業後はメンバーとのミーティングに参加するなど、日々の生活の大部分をその活動に注いでいましたが、NPO法人で活動をしていた期間は私の人生の中で最も充実していた期間であると感じています。それは、当時所属していたメンバー1人1人が、団体の理念に共感し、大学時代の貴重な時間を使って新しい組織に入るという挑戦をしてきたメンバーであり、そのメンバー1人1人が日々の活動の中で新しいことに挑戦し、目指す目標に対して全力で取り組む姿が自分にとってとても

尊敬できる姿であったためです。私が就職活動をしていた当時、大阪ガスは電力小売り全面自由化を翌年に控え、従来の関西にガスを販売する会社から関西にこだわらず日本全国、さらには全世界にガスや電気を中心としたエネルギーを販売する会社に生まれ変わろうとしていた時期で、就職活動の中でお会いした社員1人1人が自分なりに挑戦するテーマを持ちながら日々働いていると感じました。私はその熱意に惹かれ、挑戦するメンバーと一緒に働きたいと思い、この会社を志望しました。大学に入学したときに思い描いていた自分の将来像とは少し異なる職種を選択しましたが、今もこの選択をしたことに後悔はありません。

入社後は電力小売り全面自由化を牽引する組織である発電部門に配属となり、今は泉北天然ガス発電所で電気計装分野のメンテナンスを担当しています。大阪ガスの社風として、若い時から比較的大きな仕事に挑戦させてくれるという点があり、私もその例外ではなく、配属当初から一件工事の主担当を努めるなど、責任の伴う環境で仕事をしていました。初めは発電所の右も左も分からない状況で仕事を進めなければなりませんでした。そんな状況でも常に意識していたのは、可能な限り現場に出向き、自分の目で習得した情報を基に物事の原理原則を理解することです。私がこの考えを持つようになったのは所属していた研究室における経験が大きかったと感じています。私が所属していた研究室では物事の原理原則を理解することを重視しており、何を始めるにしてもまずは原理原則を理解することからと指導を受けていました。先述の通り研究室配属前はあまり真面目に勉強をしてこなかった私であるため、配属当初は教授の問いかけに対して答えられないことが多く、厳しいご指摘を受けることが多々ありました。しかし、自分なりではありますが、少しずつ努力を積み重ね、最終的には修士論文という形で自分が進めてきた研究内容をまとめることができました。この成果につなげられたのも日々の積み重ねがあったからであり、これからもこの考え方は大切にしていきたいと考えております。

現在入社3年目となり、1年目と比較してより広い視野で物事を進めていかなければならない機会が多くなりましたが、現場の原理原則を理解した上で仕事を進めるという原点を忘れることなく、これからも挑戦する組織の一員として新しい挑戦を続けていきたいと思っております。

(電気電子 平成26年卒 28年前期)